

発生してしまった“ゾイシアデクライン”の対策は？ (日本芝立枯病)

おさらい

ゾイシアデクラインの殺菌剤による防除適期は秋

ゾイシアデクラインの防除方法

// 化学的な防除

- 浸透移行性のある殺菌剤を使用する
- 多水量散布で薬剤を根に届かせる
- 2～3年の複数年防除が必要
- 春に病害箇所をマッピング→秋に殺菌剤散布

// 耕種的な防除

- 施肥と散水を十分に行う
- 更新作業によりサッチを除去
- 酸性資材を使用し土壌pHを下げる

などがポイント



右記のQRコードから芝草通信の
バックナンバーをご覧ください。

芝草通信 vol.26-ゾイシアデクライン対策-



ただし、発生後の殺菌剤散布は

ゾイシアデクラインからの回復を早める効果を期待できる！

実証

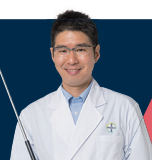
2021年春～初夏に 実施した試験結果を ご紹介

2021年4月下旬
関東地方南部のゴルフ場に発生した
ゾイシアデクライン(フィアロフォラ菌)



公式YouTubeチャンネル

Envuアカデミー開講!!



チャンネル登録は
コチラから！



実証試験結果

- 場所：関東地方南部のゴルフ場
- 使用薬剤：クルセイダーフロアブル0.25mL/m² + 浸透剤(規定量)
- 薬剤散布日：2021年5月17日
- 散布水量：500mL/m²



コウライグリーン

全体的に萌芽不良のような落ち込みが目立つ



気温上昇や降雨による影響もあるが少しずつ回復傾向



完全回復には至らないものの、大きな落ち込みは見られない状態まで回復

散布時
2021年5月17日

散布10日後
2021年5月27日

散布44日後
2021年6月30日



フェアウェイ

フェアウェイでも萌芽不良が見られる



気温や降水の影響もあるが急速に回復傾向を示す



病斑はほとんど分からないレベルにまで回復



無処理のコウライグリーン

無処理のコウライグリーンは回復が遅れている

// 2021年11月上旬の状況(病斑はほとんど分からない)



しかし、油断大敵。ゾシアデクラインは、殺菌剤の単年処理での完治は難しい。

秋の段階で病斑がほとんど分からない状態でも、殺菌剤を再度散布しておくことを推奨します。

秋にも
春にも

Envuがおすすめするゾシアデクライン対策
クルセイダーフロアブル

単年処理でも発病程度を軽減。完全防除には複数年処理が必須。

- 有効成分テブコナゾールがフィアロフォラ菌にもゴウマノマイセス菌にも効果あり
- 高い浸透移行性
- 秋の散布で翌年春の発病を抑制

薬量:0.25mL/m² 散布水量:500mL/m²

詳細は
こちらから

